

笑顔が一番

令和3年 9月
今江こども園
二木 恵子

なかなか、コロナの収束を迎えることが出来ず残念です。先日、新聞でこんな記事があり、感銘を受けましたので、紹介します。(途中省略しての紹介です)

禍(わざわい)を転じて福となす

新型コロナウイルスの流行は、全世界に打撃を与えた。生活様式ががらりと変化し、経済にも当然大きな影響が出ており、そのため、言葉には尽くせぬ苦勞している人も多いだろう。

(途中省略)

そんなとき、今日の言葉は、心にむなしく響く。何をどうあがいても、災いを福に転じさせることなどできっこないからだ。

そんな苦しい状況だからこそ、日々の生活の中に小さな福を探すことが大切になってくる。世界中の国家の力をもってしてもどうにもならない歴史的な災厄を前に、個人の力などちっぽけでしかない。

けれど、考えてみてほしい。不安で暗くなっているあなたのお子さんの気持ちを上向きにできるのは、国家ではなく、あなたではないか。ちっぽけな個人にしかもたせない福だっ
てあるのだ。

(途中省略)

私が運ぶことができる「福」は実に小さい。しかし、自分と家族を守るにはどうしたらいいだろうかと考えながら、私はゆっくりと生きている。

＝北国新聞 きょうの言葉より＝

子どもとご飯を食べる、散歩する、一緒に遊んだり、料理したり、歌ったり、笑ったり、日々の何気ない生活に私たちしか運べない幸せがあります。改めて「当たり前の日々」について考えたいところです。



「ほめる」より子どもの心を動かすことば

さて、子どもの心を少しでも前向きにするために、今回もアドラー博士の言葉を紹介していきます。

「がんばれ」より「がんばったね」で、次もやる気になる

がんばること、ベストを尽くすことは大切です。ただし、「がんばれ」と言われて追い立てられるようにがんばるのでは、楽しくないし、やがて息切れしてしまいます。なぜなら、「もっとがんばれ!」というのは、励ましているつもりでも、実は、まだがんばれていない

という意味になるのです。

今の自分ではまだダメ。もっとがんばらなくては……。そして、燃え尽きもおこります。

「がんばれ」と繰り返すより、「がんばったね」と言ってほしいのです。

「がんばったね」「そこまで出来たんだね」「この調子ならあと少しだね」

努力を認めてもらった子どもは、自分がんばれたんだ、よし、もっとがんばるぞ、と思えるのです。

大人から見たら、もっと早く、もっとうまく思うかもしれませんが、けれど、親の基準で評価するのではなく、子ども自身の努力や成長をぜひ認めてあげて下さい。

努力が続くのは、「立派なこと」ではなく「素敵なこと」

努力をするために、目標を立てることがあります。しかし、目標というのは、何か立派なことを言うのが大事なのではありません。それでは、「なかよくあいさつしよう」のような自分の目標というより、何かの標語と変わらなくなります。

目標が生きるためには、「こうなったら素敵だな」という夢に描くイメージがあって、そのためにこの目標に向けてがんばるんだという思いが生まれることが大切なのです。

ですから、〇〇ちゃんの目標は?と聞く前に

「どんなふうになったら素敵かな?」

「どんなことができるようになったら楽しいと思う?」

と聞き、いっしょに、子どもの願いを叶えるための行動(目標)を考えてあげ、実行していくのです。(大きくなったら、自分で考えられるようになる)

目標は何度でも修正して「できた自信」を積み重ねる

目標は、なるべく具体的にすることが大切です。また、その通りできるのが大切ではありません。むしろ、うまく達成できないことが多いのです。

出来た時は「できたね」と認めてあげれば、子どもは達成感を味わうことができます。出来なかった時は、責めるのではなく「どうやったら出来るかな」と考えればいいのです。

やってみて無理だったら目標を考え直します。目標というのは、未来をつくること、未来の設計です。設計ですからいくらでも修正可能です。

大人でも、なかなか目標通りできないもの。未来に向かってのステップと考え一つ一つゆっくりでいいのです。出来た自信は、子どもの自己肯定感に繋がります。

次回も、続けて今回のテーマでお知らせします。

